

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「改めて、校（園）内支援体制をチェックしよう」



1 校（園）内支援委員会の設置・活動

- 特別支援教育に関する年間計画を作成し、全職員で共通理解を図っている。
- 校（園）内支援委員会を運営計画に位置付け、定期的に開催する予定になっている。
- 支援対象児の検討・判断を校（園）内支援委員会において行っている。
- 子ども・保護者への具体的な支援方法や評価の検討を校（園）内委員会で行っている。

2 特別支援教育コーディネーターの役割

- コーディネーターを校務分掌に明記し、教職員や保護者（PTA、通信等）に周知している。
- コーディネーターが授業参観や担任と打合せを行い、支援対象児の実態把握をしている。
- 複数のコーディネーターを配置し、校内の連絡調整、保護者の相談窓口等の役割分担をしている。
- コーディネーターが中心になり、困難ケース等について、いつでも外部機関と連携できている。

3 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用

- 本人・保護者の意向や将来の希望（合理的配慮を含む）に基づき個別の教育支援計画を作成している。
- 誰がどのように指導・支援するか、個別の教育支援計画に関係機関等の役割を明記している。
- 校（園）内支援委員会で検討した子どもの実態を適切に捉えて個別の指導計画を作成している。
- 2つの計画を関係職員や保護者と計画的に評価し、必要に応じて改善している。

4 教職員の共通理解と専門性の向上

- 支援対象児の指導・支援について、教職員・支援員等と定期的に情報交換をしている。
- 支援対象児の情報を担任のほか関係教職員・管理職も把握している。
- 特別支援教育に関する校内研修会を計画し、全教職員が参加する予定である。
- 特別支援学級や通級指導教室の特別の教育課程について教職員が共通理解している。

5 児童生徒への指導・支援

- 支援対象児の実態を整理し、関係職員で指導・支援の方向性を共通理解している。
- 支援対象児の指導・支援について、人的支援や場所が確保できている。
- 学級担任や各教科担当者が指導・支援について定期的に情報交換し、評価・改善をしている。
- 支援対象児の変容について、随時、保護者と面談や連絡帳で確認をしている。

6 関係機関との連携

- 支援対象児について、前籍校（園）から積極的に情報を得ている。
- 地域の特別支援教育に関する情報が随時届く仕組みができていて全職員が知っている。
- いつでも関係機関と連絡が取れるように「地域資源活用マップ」を作成している。
- 支援対象児が卒業（卒園）する場合、進路先に必要な情報を確実に伝えている。

7 保護者との連携・協力

- 保護者から児童生徒への関わり方のポイントや学校への要望等を十分に聞き取っている。
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用して保護者と十分に意見交換をしている。
- 保護者面談に必要なに応じてコーディネーターや管理職も適宜参加している。
- 保護者に地域の相談機関や学習会の案内、児童生徒の様子等の情報提供ができています。

年度当初に特別支援教育に関する年間計画を作成し、コーディネーターの役割、支援対象児の検討、保護者や外部機関との連携について全職員で共通理解を図ってください。

支援は周囲の気付きと理解、本人の自覚がスタートです。個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用に当たっては、保護者に加えて本人の参画をお願いします。

コーディネーターが動くとも学校が変わります。学校が変わると子どもが変わります。



とれたて直送便



「統括コーディネーターが駆け付ける」

今年度も関係機関と連携しながら相談・支援活動を展開します。詳細はリーフレット「令和8年度特別支援教育統括コーディネーター活用のご案内」をご覧ください。検査やケース会議等で関わった子どもへの継続した支援と、子育てや就学に悩む保護者への相談支援に力を入れます。気軽に声を掛けてください。いつでも、どこへでも、すぐに駆け付けます。